小学校周辺の通学路を安全整備「子供を守ろうプロジェクト」実施（県交通安全施設業協会）

～北九州・小倉南区で通学路のカラー舗装や標示工事、ボランティアで児童の安全守る～



激励に訪れた協会役員と施工業者社員との記念撮影

（一社）福岡県交通安全施設業協会は、１１月９日と１０日の２日間の日程で、北九州市小倉南区の市立広徳小学校および企救丘小学校周辺の通学路において、道路標示の施工やカラー舗装を行う「子供を守ろうプロジェクト」を実施した。本プロジェクトは、近年全国で相次ぐ子どもの交通死亡事故を受け、道路交通安全施設工事の業界団体として児童の安全確保に貢献することを目的に行われているもの。業界の全国組織による提唱で始まって以来今年で１８年目を迎え、福岡県内での実施は今回で９回目となる。



路面標示専用の施工機械等をトラックで現場搬入

今回の施工現場となった小倉南区は、北九州市内でも年少人口が多く、児童数が豊富な地域である。交通量の多い幹線道路や鉄道路線が南北に通っており、警察等との協議の末、危険度が高いと判断された通学路が選定された。

施工には地元・北九州地区の会員企業である㈱寿陽建設（北九州市小倉南区）が協力し、区画線８３０メートルやベンガラ・緑色のカラー舗装、交差点マーク・「飛び出し注意」などの路面標示、クイックシート５枚などを設置・整備した。工事費約３００万円相



路面上をきれいに清掃し、プライマーを均一に塗布

当にかかる費用は、協会による原材料負担および会員企業のボランティア作業によって賄われている。

同協会では事業関連の取り組みとして、県内２５０台以上の会員車両に「子ども１１０番」ステッカーを掲示するなど見守り活動も展開中。今後は県内５地区を持ち回りで活動を継続し、来年度は筑豊地区での実施を予定している。

この日は協会役員らも激励を兼ねて現場を視察。同協会の田中賢哉会長（日本ディックライト㈱）は「子どもたちは日本の宝です。安全・安心の道路づくりに我々業界として少しでも貢献したく、この活動を続けております。また、子どもたちにこうした仕事の存在を知り、興味を持ってもらえるきっかけにもなればと考えています。来年度は筑豊地区で活動する予定です」と語った。

また、今回施工に協力した㈱寿陽建設の近藤幸穂代表取締役は「地元の通学路の安全確保に協力でき大変光栄です。今回は広徳小学校や企救丘小学校の周辺において、区画線やカラー舗装、路面標示などを整備し、子どもたちや地域の皆さまが安心して利用できる環境づくりに取り組みました。私自身も二人の子どもを持つ親として、子どもたちの行動は時に予想が難しいことを実感しています。だからこそ、子どもたちの安全を守る環境を整えることが私たち交通安全施設業界の使命だと考えています。今後も地域のインフラ整備を通じて、子どもたちが安心して通学できる、安全・安心なまちづくりに貢献していきます」と抱負を語った。





熟練オペレーターの入念な作業で完成した路面標示